タレブ『まぐれ』の要約

寺尾　敦

# 第６章　歪みと非対称性

確率分布が非対称で歪みのある場合には，中央値と平均値はかなり異なったものになる．そのような場合には，中央値はプラスであっても，平均値（すなわち，期待値）はマイナスになることがある．たとえば，非常に高い確率でごくわずかな利益が出て，ごくわずかな確率で非常に大きな損失が出る賭けでは，こういうことが生じる．

期待値は，事象の結果の大きさと，その事象が生じる確率の積である．人間はしばしば，確率と期待値を混同してしまう．すなわち，事象が生じる確率だけを考慮し，結果の大きさを考慮しない．金融市場では，株価が上がるか（ブル）下がるか（ベア）だけに注意が向きがちであるが，どれくらい上がるか（あるいは下がるか）も考慮する必要がある．稀にしか起きないが結果が重大な事象が存在する場合には，そういった事象を無視してはいけない．

過去の時系列データから将来を予測することには，稀な事象のリスクを見誤る危険がある．これまでに安定して利益をもたらしてきた金融商品は魅力的だが，稀な事象は突然に起きて，大きな損失をもたらす．たとえば，とても長い間にわたって安定していた通貨が，突然暴落することがある．ランダム性のある世界でも，将来にわたってその性質が変わらないのならば，過去のデータが役に立つかもしれない．しかし，世界の性質は定常的ではなく，変化してしまう可能性がある．そうなると過去のデータは役に立たない．